



スオスダイ！ (こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいされ、カンボジアでの宣教活動での継続が導かれました。

2024年1月に支援グループ「リビングフィールドの会」が発足し、更に2025年8月には、韓国の宣教団体「WUPM」への加盟が実現しました。主の御言葉と導きによって、現地での活動を継続しています。

近況報告

新年あけましておめでとうございます。皆さまのお祈りとご支援によって、カンボジアで11回目の新年を迎えることができ、心より感謝しております。新しい年も、皆さまそれぞれの地で復活の主が日々伴ってくださいますようにお祈りいたします。

12月に入り、タイとカンボジアの国境付近で再び軍事衝突が起きました。現在プノンペンの街中では、避難した人々のための救援物資を集めるテントがあちこちに設置されています。12月下旬、捕虜として拘束されていたカンボジア兵が解放され、停戦に向けて再び動きだしました。どうか一日も早く完全な停戦が実現し、避難された方々の仕事や生活が守られるように、お祈りください。



2025年最後の主日礼拝、クリスマス礼拝にて
降誕劇をささげてくれた子どもたち

新しい出会い

例年に続き、10月にホライオス・バプテスト教会主催による子どもイベントが開催されました。総勢150人以上の子どもたちが参加したこのイベントで、カンボジアに来て半年の宣教師との出会いが与えられました。彼女、マーブイさんはCBUオフィス教会で日曜学校を手伝いたい、と祈り願っていました。彼女は11月から日曜学校、礼拝に参加されています。マーブイさんはまだクメール語があまり話せないため、礼拝後に教会員の方より、クメール語を習っています。マーブイさんを遣わしてくださった神様に感謝します。彼女の言語の学び、働きを覚えてどうぞお祈りください。



日曜学校にて、子どもたちと交流するマーブイさん
(右上)

見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。
わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。

イザヤ43：19

困難に寄り添う

11月下旬の土曜日未明、私たちの教会に集う子どもたちが暮らす集落で大きな火災が発生しました。9軒の家が全焼し、14家族が住む場所を失いました。その中には、教会の子どもたちの家族も含まれています。

翌日の主日礼拝後、状況を確認するために現場を訪れました。そこには、一瞬のうちに家も持ち物もすべてを失い、着の身着のままで避難した家族たちが、ただ寄り添うように立ち尽くしていました。あまりにも突然の出来事に、途方に暮れ、深い悲しみと衝撃の中にいる姿が胸に迫りました。



集落の出火元付近の様子。出火元付近の家は柱しか残っていませんでした。

この厳しい状況を受け、CBUオフィス教会では、まず“今日必要なもの”である食料支援を行うことにしました。CBUは日頃から地方の貧困地域で食料配給を行っているため、必要な食料をすぐに整え、被害にあったご家族へお届けすることができました。CBUニバス師が一人ひとりのために祈りをささげました。現在、村長さん主導で家屋再建のファンド（支援基金）が立ち上がっています。私たち教会も、家を失った家族に寄り添いながら、継続的に支援を行っていきます。どうぞお祈りください。ご支援される方は、最後に記しました楽天銀行の口座へ「家屋再建支援基金」と表記の上、入金いただけると感謝です。



被災した14家族のために食料と献金をお渡しし、ニバス理事長が祈りをささげました。

地方で実を結ぶ クリスマスの恵み

12月21日（日）、プノンペンから車で約2時間の場所にある、プレイヴェーン州のムッポー先生のお宅を3カ月ぶりに訪問しました。今年10月、日本の教会の支援によって、先生の自宅の敷地内に屋根が完成し、「家の教会」として礼拝を捧げる場所が与えられました。その小さな一歩が、今、確かな実を結び始めています。



聖書朗読をする男の子。ムッポー先生の指導でスムーズに読めるようになってきました。

クリスマスの紙芝居の時間には、聖書のお話を集中して聞こうとする子どもたちの姿に、福音が確かに心に届いていることを実感し、主への感謝が溢れました。皆さまの祈りと支援によって、この家の教会は生きた礼拝の場として用いられ始めています。これからも定期的に地方を訪れ、福音と共に主からいただいた祝福を届けていきたいと願っています。



（左）屋根が完成し、礼拝ができるようになりました。
（右）完成した工作を手にした子どもたち

毎週日曜日になると、地域の方々や子どもたちが集い、礼拝が守られています。この日は、子どもたちと共にイエス・キリストのご降誕をお祝いしました。毎週通っている子どもたちは、賛美歌を自然に口ずさみ、聖書も迷うことなく読めるようになっていました。支援が具体的な形になり、変化が起きていることをはっきりと感ずることができました。



クリスマス紙芝居を集中して聞く子どもたち

CBUオフィス教会 クリスマス礼拝

12月28日（日）、2025年最後の主日、CBUオフィス教会にてクリスマス礼拝が行われました。例年と同じく、私たちは教会の子どもたち、青年たちと共に、キリスト降誕劇をおささげしました。天使、マリアとヨセフ、羊飼いと羊、そして博士という、それぞれの役を担った子どもたちは、例年以上にセリフをしっかり覚え、生き生きと立ち振る舞っていました。その中でも、4年連続で博士の役をしてくれた男の子は、ゲストとして来られたお母様が見守る中、堂々と演技してくれました。



クリスマス礼拝の様子。約80名が参加。
多くの出会いと再会がありました。



降誕劇のクライマックス。宝物をささげる博士たち。
今年も博士役を担ってくれた男の子（右）

また、楽器隊の中心メンバーの一人が、当日病気のため来られなくなるというアクシデントがありました。しかし主が代わりのメンバーを備えてくださり、わずかな練習時間で本番を迎えたにもかかわらず、皆で息を合わせ喜んで、ハンドベル演奏を行うことができました。主の助けに感謝いたします。

この日、しばらく礼拝から離れていた教会員の数家族が礼拝に参加しました。その中でも、コロナ危機以来ずっと教会から離れていた青年が礼拝に参加するなど、再会の喜び溢れるクリスマス礼拝となりました。主の御名をほめたたえます。

「希望の糸」新製品のご紹介

カンボジア女性支援ミニストリー「希望の糸」の働きを、いつも覚えてお祈りくださり、心から感謝いたします。これまで、マクラメプラントハンガーを中心に製品を作ってきました。その中で、新しいマクラメ製品について、多くの方からご意見やアドバイスをいただき、アイデアを温めてきました。

8月に日本からカンボジアに帰国して以来、ケマさん、スレイモムさん、そして新メンバーのソケーンさんと試行錯誤を繰り返し、新製品の開発に取り組んで来ました。主の助けと導きによって、三種類の作品を生み出すことができました。以下、それらの新作を紹介します。



新しい作品の開発に取り組むケマさん（左）、
スレイモムさん（中央）、ソケーンさん（右）

(1)マクラメ・クロスバッグ

カンボジアの花をアクセントに加えた、小さなポシェットです。携帯電話や財布が入り、ちょっとした外出にもぴったりです。光に当たると花模様がふわりと浮かびます。

(2)マクラメ・ネットバッグ

幾何学模様を編み込んだ肩掛けバッグです。インナーバッグ付きで、小物やA4ノートも安心して入られます。仕事や通学に便利です。

(3)マクラメコースター

新メンバー、ソケーンさんが、初めて編んだコースターです。両端にやさしい色味を加えました。「使う人がほっと幸せを感じられますように」との願いが込められています。これらの新しい作品が、一人でも多くの方々の手に届き、女性たちへの支援と祈りの輪が広がっていきますように祈っています。



（左）マクラメ・クロスバッグ
（中央）マクラメ・ネットバッグ
（右）マクラメコースター

来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内のインターナショナル校「ホープ・インターナショナル・スクール」で学んでいます。高校2年生の来主は、カリキュラムに、ボランティア奉仕活動が含まれています。活動の例として、低学年のスポーツ部のコーチ、或いは学校の礼拝での楽器奏楽などがあります。来主はCBUオフィス教会で、子どもたちに英語を教える活動を行ってきました。毎回スライドを用意し、単語クイズを取り入れるなど工夫して英語クラスの奉仕を担っています。子どもたちは、自分たちと年齢が近いお兄さんの先生との学びを毎回楽しんでいるようです。



英語クラスの様子
スライドを使って楽しく行っています。



サッカーの練習試合のひとつ
シュートをしようとする栄主（背番号16）

中学2年生の栄主は、11月にサッカーのクラブ活動が始まりました。ホープスクールでは、1年を通じてサッカー・バスケットボール・バレーボールの3つのスポーツに力を入れています。ミドルスクール（中学部）の中で最高学年となった栄主は、最も得意なサッカーの練習に、毎週一生懸命に取り組んでいます。プノンペン内にあるインター校同士での大会を控え、練習試合が行われました。ホープスクールは初戦から勝利を収めることができ、最終学年としてチームの結束が高まっているようです。来主、栄主の学校生活、学業、スポーツ共に守られていることを心より感謝いたします。

宣教活動継続のために 一経済的必要について

いつもカンボジア宣教を覚え、お祈りくださり心より感謝します。私たちの働きは、皆さまお一人お一人の祈りと支えによって守られ、この地で福音が着実に分かち合われています。

現在、宣教活動を継続していく中で、活動費の確保が切実な課題となっています。この地で神様の愛を伝え続け、一人でも多くの人々に寄り添うためには、皆さまの経済的な支援が必要です。これからもカンボジアでの歩みを止めることなく進めていけるよう、必要な備えが与えられることを信じて祈っています。どうか、この必要を覚えてお祈りいただけたら幸いです。



皆さまのお祈りとご支援にいつも感謝しています。
宣教活動継続のために、どうぞお祈りください。

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
2. キリングフィールド近くの集落と教会付近の地域が、福音によって変えられていくように。
3. カンボジア女性支援ミニストリー「希望の糸」の新製品が多くの人々に広まるように。
4. カンボジア宣教に加わる教会が新たに起こされ、宣教のための経済的必要が満たされるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫（WUPM宣教師）、来主（くろす、17歳）、栄主（えいす、13歳）

（連絡先）Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

ホームページ：<https://living-field.org/>

（献金振込先）楽天銀行 ノエル支店（支店番号246）

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

